



男女共同参画って何だろう？

F・F推進員 柏 雄子

「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担うべき社会です。

日常生活を振り返ると、「女なんだから口出しをしてはいけない」、「家庭内の仕事は妻がやるのが当然だが、大事なことは夫が決めるものだ」、「家庭のこともきちんとやりながら仕事もきちんとやり上げる」、「地域での活動の担い手は女性だが、何をするかを決めるのは男性だ」、「職場では女性は男性の補助的な仕事をやってくれればよい」、など多くの場面で「女だから」という理由で女性の活動が狭められている状況がみられます。

まず、毎日の生活の中で特に気にもとめずにいる事柄について、あなた自身がどう思っているかに気づき、考えていくために、以下のチェックシートで自己診断してみましょう。

◎チェックシート◎

	Yes	No
・「女だから」「男だから」仕方ないと思うことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・男性が弱音を吐くと「男のくせにみっともない」と思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・夫を「主人」と呼んでいる（呼ぶのは当たり前だ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・妻を「おい」または「お前」と呼んでもよい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・妻が夫より遅く帰宅するのはよくないと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・男の子が外泊するのはかまわないが、女の子はいけないと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・親が倒れたら他人まかせにせず、息子の妻や娘が介護すべきだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・気に入らない時に夫が少しぐらい妻を殴るのは仕方がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・男性は仕事ができるのが一番である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・女性は家庭があるので責任の重い仕事や管理職には向かない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・職場に女性のヌードカレンダーを貼るくらいはセクハラではない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・県会議員など議員になるのは男性の方が向いていると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

東京女性財団「ジェンダーチェック女と男 男女平等への指針」を参考

あなたはどうか？

F・F推進員とは…

仕事や家庭、社会へ男女が共に協力し合いながら参画しあうという意味を含めた『Fifty・Fifty』の略。具体的には、男女共同参画社会の実現に向けて各市町村での取り組みや地域活動が活発に行われるよう、推進的な役割を担うリーダーです。



上野千鶴子さん講演



昨年12月、JA女性部主催の研修に、県男女共同参画中央センターの共催で、我が国の女性学のパイオニアである上野千鶴子さんに、「世直し 女の出番」と題して講演していただきました。

上野さんは開口一番、「おひとりさまの老後」以来、老後をいかに生きるかの講演ばかり続いてきたが、本来の自分の本領である、女性学を話せるのでうれしいと笑顔でいっぱいでした。

上野さんの舌鋒は鋭く、しかしユーモアたっぷりの話し方で会場を沸かせ、感銘深く聞きました。

女性の参政権獲得に奔走した市川房江さん、山川菊枝さん、1946年改正憲法公布、終戦直後にできた、日本国憲法の起草に、憲法24条の「男女平等」の条項を書いたアメリカ人女性ベアテ・シロタ・ゴートンさんが日本の女性のために力を尽くされたことにも触れられました。しかし、日本では、なかなか政治的平等、社会的平等がいつまでたっても達成されない状況にあります。と、2013年の「国際男女格差レポート」で調査対象136ヶ国中で105位で、前年より4つ下がり、先進国中で最低ランクです。この調査は、世界人口の93%をカバーしています。日本女性の成績が良いのは、「健康と生存」くらいですねと。上野さんは女性閣僚の割合が依然低いのですが、特に地方議員である県と市が増えない。なぜ増えないかと言えば、立候補する女性がないからです。余りの明快さに拍手でした。

日本のジェンダー平等はいつになったら達成できるのでしょうか？

安倍政権は2020年までに女性を30%活用すると公表しています。目標を画餅に帰すことなく実行してほしいものです。又、「当事者主権」とは女性、子ども、障害者、高齢者である社会的弱者の自己定義権の要求についても話され、弱者がつながる、人持ちになる。人間関係を作る。壊れない。ひとりで抱え込まない。サステイナブル（持続）よりサバイバルですと上野さんが仰った。

又、このままでは第二、第三の福島が生まれると、そして最後に中央公論誌上で「夢の憲法前文を作ろう」に応募し、最優秀賞に選ばれた17歳の女子高校生の福岡亜也子さんを紹介して、私たちの未来の生き方を指し示していると結んで講演は終わりました。



【アンケートの結果】

☆本日の内容でこれからの自分の活動や生活にいかせる事はありましたか？

- ・選挙があるから自分の一票を大切にしようと思いました。家族に左右されずに自分で考えて投票しようと思った。
- ・小笠原先生ひとりで家で死ねますか、を読んで学びたいと思います。
- ・自分の意見を自信を持って言える人になりたいと思いました。
- ・女性の地位向上のために手を取り合い助け合う社会に一步でも半歩でも前に進みたい。娘が先生と同じ「おひとり」で心配のタネでしたが、気持ちが楽になりました。
- ・60代に入りました。ただの高齢者にならないで若者に恥じないバーバになりたい。
- ・自分の意見だけを主張するのではなくみんなの声に耳をかたむけ、弱者であるかたの声の橋渡しをしてゆきたい。
- ・たどたどしいネットだけでももっとがんばってあそぼう。
- ・ネットなどやってみようかと思いました。
- ・ありました
- ・たくさんの著書がありますので、ぜひ読んでみたいと思う。
- ・前向きにこれからも生きていきたいと思います。
- ・たくさんありました。
- ・これからパソコンを学んでもう少しネットワークに加わられるようにしたいと思います。
- ・支えあう社会づくり
- ・「持ち寄り家計で助け合い」の話（言葉）を聞いて。
農家の主婦です。小さな喜びはたくさんあります。そんなことを大事にしながらも、自分の出番があったら、私、出ます。そんな気にならせてもらいました。
- ・私の考えは間違っていなかった。これからも社会情報に耳を開いてニュース等よ〜く見聞きしようと思いました。安倍首相は一度頭が狂った人であることを忘れないでほしい。自分の都合のよいことだけ、述べていると思う。家族ある人の人生も考え発言も必要かと。
- ・超高齢化社会になっても安心して弱者になれる社会、仲間づくりは大切だと思った。ネットは弱者のツール。ネットで多世代の仲間と交流できる。
- ・あまりない
- ・GO BACK TO THE 百姓 LIFE！

○上野千鶴子さんの著書の紹介

- ・「選憲論」集英社新書 740円
- ・「当事者主義」岩波新書 700円
- ・「女たちのサバイバル作戦」文春新書 800円
- ・「おひとり様の老後」法研 1400円
- ・「小笠原先生ひとりで家で死ねますか？」朝日新聞出版 1400円



ダンプ・軽トラの運転操作講習会がありました

男女共同参画推進チーム 三村 敏子

昨年行った草刈り機安全操作講習会の際に、「軽トラの運転をしてみたい」との要望が参加者からありました。最近の自動車はオートマ車が多いので、マニュアル車の軽トラは不慣れとのことでした。稲刈り前に行う講習会でしたので、ダンプの運転操作も行うことにしました。

当日は若い女性7名の参加がありました。会場は体育館の駐車場。男女共同参画推進チームで先生役を務める予定だった男性メンバーの都合が悪くなり、女性メンバー4人で行いました。はじめに停車してあるダンプで、ダンプアップの操作を参加者ひとり一人がやってみました。みなさん積極的にまごつくこともなく、大変スムーズに操作できました。次にダンプチーム・軽トラチームに分かれて、まず推進チームのメンバーが運転して、助手席から運転の仕方を見てもらい、次に実際に運転していただきました。参加されたみなさんから、「コンバインの運転も教えてほしい。」「草刈り機もまた講習会開いてください。」「フォークリフトも習いたい。」等々うれしい要望がありました。

早速コンバインの運転を教えてもらえるかどうか、JAにお聞きしたところ、時期的にすぐ稲刈りになるので、今回は無理でした。そのあとフォークリフトのことを伺ったところ申込者が少なくなってきたので、今年度は講習会の予定がないそうです。コンバインについては、メーカーにより操作が違うので、7月に行われる農業機械の展示会の際に各メーカーから教えてもらっては？とアドバイスいただきました。各メーカーに伺ったところ、教えていただけるとのことでした。今年度は草刈り機、コンバインの運転操作の講習会を企画しました。

大湊村男女共同参画推進チーム会員募集！

大湊村男女共同参画推進チームとは、住民が主体となって、男女共同参画を推進するため、自主的に活動する団体です。

会員それぞれが、出来る範囲で活動していただいています。

どなたでも参加可能ですので、興味のある方はお問い合わせください。

【申込 & 問合せ】

三村敏子 (Tel 22-4177) 役場住民生活課 (Tel 45-2114)

～編集後記～

この通信が「男女共同参画社会」について考えるきっかけとなり、ご家族の皆さんでこの通信の感想を話し合っていたいただけると嬉しいです。(役場住民生活課 伊藤 智子)

☆各記事についてのお問い合わせはこちらへ☆

大湊村役場住民生活課 TEL 0185-45-2114 FAX 0185-45-2162